

第1章 地区別人口（総覧）の分析

本市の地区（支所・総合支所）別人口の推移と将来の状況について総覧し、各地域の比較分析を行います。

1 地区別人口動向分析（総覧）

（1）地区別総人口の推移（総覧）

下関市人口ビジョンで示したとおり、国勢調査による本市の総人口は1980(昭和55)年をピークに減少を続けていますが、当該年から直近の国勢調査年である2010(平成22)年まで40年間の各地区の人口についてみると、図表1-1のとおり、地区ごとにその変化は異なっています。

17地区中5地区(王司・清末・王喜・勝山・川中)で人口が増加、うち3地区(王司・清末・勝山)は人口が最も多い年が2010(平成22)年となっており、増加傾向が続いています。一方、減少している12地区のうち、8地区は人口が最も多い年が期首である1980(昭和55)年であり、全市同様に減少を続けていることがわかります。

一方、人口減少率が大きいのは、豊北、内日、本庁の順で、最大の豊北地区では40年間で人口が約4割減少しています。また、本庁地区の人口減少数は全体の約75%を占めています。

図表1-1 地区別人口の変化(1980(昭和55)年 → 2010(平成22)年)

	人口 (人)		人口増減			期間中人口が 最大となる年
	昭和55年 A	平成22年 B	数(人) C(=B-A)	率 C/A×100	順位 (降順)	
全市	325,478	280,947	-44,531	-13.7%	-	1980(昭和55)年
本庁	105,508	72,153	-33,355	-31.6%	15	1980(昭和55)年
彦島	41,953	29,200	-12,753	-30.4%	13	1980(昭和55)年
長府	30,179	29,157	-1,022	-3.4%	8	1995(平成7)年
王司	5,871	7,401	1,530	26.1%	2	2010(平成22)年
清末	5,382	6,307	925	17.2%	4	2010(平成22)年
小月	8,016	6,747	-1,269	-15.8%	10	1980(昭和55)年
王喜	3,256	3,457	201	6.2%	5	2000(平成12)年
吉田	2,121	1,527	-594	-28.0%	12	1980(昭和55)年
勝山	13,780	25,507	11,727	85.1%	1	2010(平成22)年
内日	1,996	1,298	-698	-35.0%	16	1980(昭和55)年
川中	26,797	33,335	6,538	24.4%	3	2000(平成12)年
安岡	15,377	14,904	-473	-3.1%	7	1990(平成2)年
吉見	8,721	6,614	-2,107	-24.2%	11	1980(昭和55)年
菊川	8,015	7,978	-37	-0.5%	6	2005(平成17)年
豊田	8,602	5,987	-2,615	-30.4%	13	1980(昭和55)年
豊浦	21,866	18,754	-3,112	-14.2%	9	1985(昭和60)年
豊北	18,038	10,621	-7,417	-41.1%	17	1980(昭和55)年

注意) 小数点以下の四捨五入により、地区の合計と全市の数値が一致しない場合がある。資料) 総務省「国勢調査」を基に作成

人口変化の要因となる、出生数から死亡数を引いた「自然増減」と転入数から転出数を引いた「社会増減（市内移動及び市外移動）」について、2005（平成17）年度から2014（平成26）年度まで、過去10年間の累計をみると、図表1-2のとおりとなります。

人口が増加しているのは4地区（王司・清末・勝山・川中）で、うち3地区（清末・勝山・川中）は、出生数が死亡数を上回る自然増となっています。全体の社会増減（市外移動と市内移動の合計）については、3地区（王司・清末・安岡）で社会増となっていますが、市外移動については全ての地区で社会減となっており、これらの地区は市内他地区からの転入者が多いことから、全体として社会増となっている状態がうかがえます。なお、市内移動については全地区の半分以上の9地区で社会増となっており、市内において居住地域が集中せず、分散化の傾向があると考えられます。

一方、人口が減少している13地区をみると、人口減少率は豊北・内日・豊田の順で、自然増減率は内日・豊北・吉見の順で大きくなっています。また、市外移動の社会増減率は彦島・本庁・川中の順で、市内移動の社会増減率は彦島・豊北・豊田の順で大きく、これらを合計した全体の社会増減率については、彦島・豊北・豊田の順で大きくなっています。

図表1-2 地区別人口動態（2005(平成17)年度 → 2014(平成26)年度）

	2005年人口 (国調)	人口増減 A (B + C)			自然増減 B (出生数-死亡数)			社会増減 C (D+E) <全体> (転入数-転出数)			社会増減 D <市外移動>			社会増減 E <市内移動>		
		人	数 (人)	率 (%)	順位 (降順)	数 (人)	率 (%)	順位 (降順)	数 (人)	率 (%)	順位 (降順)	数 (人)	率 (%)	順位 (降順)	数 (人)	率 (%)
全市	290,693	-22,304	-7.67	-	-13,469	-4.63	-	-8,835	-3.04	-	-8,835	-3.04	-	0	-	-
本庁	75,563	-8,155	-10.79	10	-5,696	-7.54	12	-2,459	-3.25	10	-2,787	-3.69	16	328	0.43	8
彦島	31,427	-4,808	-15.30	13	-1,820	-5.79	9	-2,988	-9.51	17	-1,207	-3.84	17	-1,781	-5.67	17
長府	29,952	-1,375	-4.59	6	-1,234	-4.12	7	-141	-0.47	5	-644	-2.15	5	503	1.68	6
王司	7,271	189	2.60	2	-126	-1.73	4	315	4.33	1	-113	-1.55	3	428	5.89	1
清末	6,074	404	6.65	1	268	4.41	1	136	2.24	2	-13	-0.21	1	149	2.45	3
小月	7,020	-332	-4.73	7	-235	-3.35	6	-97	-1.38	6	-212	-3.02	12	115	1.64	7
王喜	3,535	-254	-7.19	9	-105	-2.97	5	-149	-4.22	12	-105	-2.97	11	-44	-1.25	11
吉田	1,655	-262	-15.83	14	-181	-10.94	14	-81	-4.89	13	-32	-1.93	4	-49	-2.96	13
勝山	25,241	338	1.34	3	970	3.84	2	-632	-2.50	9	-687	-2.72	10	55	0.22	9
内日	1,427	-299	-20.95	16	-217	-15.21	17	-82	-5.75	14	-34	-2.38	6	-48	-3.36	14
川中	32,989	179	0.54	4	678	2.06	3	-499	-1.51	7	-1,167	-3.54	15	668	2.03	5
安岡	15,117	-476	-3.15	5	-623	-4.12	8	147	0.97	3	-401	-2.65	8	548	3.63	2
吉見	6,926	-953	-13.76	12	-791	-11.42	15	-162	-2.34	8	-49	-0.71	2	-113	-1.63	12
菊川	8,312	-513	-6.17	8	-490	-5.90	10	-23	-0.28	4	-220	-2.65	7	197	2.37	4
豊田	6,435	-1,051	-16.33	15	-598	-9.29	13	-453	-7.04	15	-222	-3.45	13	-231	-3.59	15
豊浦	19,753	-2,176	-11.02	11	-1,460	-7.39	11	-716	-3.63	11	-527	-2.67	9	-189	-0.96	10
豊北	11,996	-2,760	-23.01	17	-1,809	-15.08	16	-951	-7.93	16	-415	-3.46	14	-536	-4.47	16

注意)

・小数点以下の四捨五入により、地区の合計と全市の値が一致しない場合がある。

・H17.4.1～H27.3.31の数値を累計したもの。

・各増減率は、累計した各数値を国勢調査（平成17年）時の人口で除した値。

資料) 下関市ホームページ「統計しものせき（地区別の数値）」を基に作成

平成 22 年国勢調査により各地区の人口の構成（図表 1-3）をみると、図表 1-1 でみた人口が増加している 5 地区（王司・清末・王喜・勝山・川中）で、「20 歳未満」、「20～39 歳未満」の人口に占める割合が高くなっています。一方で、図表 1-1 や図表 1-2 でみた人口減少率が高い地区ほど、65 歳以上人口の総人口に占める割合（高齢化率）が高い傾向がみてとれます。

高齢化率についてみると、最も高い豊北と最も低い勝山では 24%の差があります。同年の国勢調査による都道府県別の高齢化率で、最大の秋田県（29.6%）と最小の沖縄県（17.4%）の差が 12.2%であったことをふまえると、この地区別の差は非常に大きいといえます。一般に高齢化率は、現状、都市部で低く過疎を抱える地域で高いといわれています。また将来的に、都市部では急速に上昇する一方、過疎地域においては比較的ゆるやかに上昇し、減少していくとともに人口が急減局面に入ると推測されており、本市では、同一市域内に都市的な人口減少課題と過疎地域的な人口減少課題を抱えていると考えられます。

図表 1-3 地区別人口構成

	人口 人	20歳未満			20～39歳			40～64歳			65歳以上 (高齢化率)		
		人	割合	順位 (降順)	人	割合	順位 (降順)	人	割合	順位 (降順)	人	割合	順位 (降順)
全市	280,947	46,450	16.5%	-	58,597	20.9%	-	94,103	33.5%	-	80,199	28.5%	-
本庁	72,153	10,659	14.8%	11	14,301	19.8%	10	23,767	32.9%	13	22,683	31.4%	7
彦島	29,200	5,014	17.2%	6	5,796	19.8%	10	9,705	33.2%	10	8,638	29.6%	8
長府	29,157	4,763	16.3%	9	5,990	20.5%	8	9,853	33.8%	8	8,480	29.1%	10
王司	7,401	1,339	18.1%	5	1,584	21.4%	5	2,411	32.6%	14	2,052	27.7%	13
清末	6,307	1,380	21.9%	1	1,619	25.7%	2	1,992	31.6%	16	1,291	20.5%	15
小月	6,747	1,152	17.1%	7	1,360	20.2%	9	2,323	34.4%	6	1,894	28.1%	12
王喜	3,457	630	18.2%	4	805	23.3%	4	1,127	32.6%	14	891	25.8%	14
吉田	1,527	204	13.4%	15	261	17.1%	14	562	36.8%	1	500	32.7%	6
勝山	25,507	4,979	19.5%	3	6,705	26.3%	1	8,795	34.5%	5	4,758	18.7%	17
内日	1,298	149	11.5%	16	195	15.0%	16	457	35.2%	3	497	38.3%	2
川中	33,335	6,751	20.3%	2	8,513	25.5%	3	11,041	33.1%	11	6,757	20.3%	16
安岡	14,904	2,413	16.2%	10	3,072	20.6%	7	5,040	33.8%	8	4,345	29.2%	9
吉見	6,614	931	14.1%	14	1,405	21.2%	6	2,074	31.4%	17	2,186	33.1%	5
菊川	7,978	1,344	16.8%	8	1,518	19.0%	12	2,838	35.6%	2	2,266	28.4%	11
豊田	5,987	872	14.6%	12	957	16.0%	15	1,978	33.0%	12	2,178	36.4%	3
豊浦	18,754	2,709	14.4%	13	3,240	17.3%	13	6,496	34.6%	4	6,251	33.3%	4
豊北	10,621	1,161	10.9%	17	1,276	12.0%	17	3,644	34.3%	7	4,532	42.7%	1

注意) 小数点以下の四捨五入により、地区の合計と全市の値が一致しない場合がある。

資料) 総務省「国勢調査（平成 22 年）」を基に作成

(2) 地区別将来人口の分析 (総覧)

1) 総人口と高齢化率

国立社会保障・人口問題研究所の推計方法に準拠して推計した各地域の将来人口の概略を比較すると、図表 1-4 のとおりとなります。

2010(平成 22)年の各地区の人口を 100 として将来の人口を比較すると、2040(平成 52)年、2060(平成 72)年のいずれの値も 100 以下であり、全ての地区で人口が減少し、全 17 地区中 9 地区で、市全体の水準を下回る見込みとなっています。また、2040(平成 52)年の時点で、2 地区(内日・豊北)が 2060(平成 72)年の全市の水準以下にまで減少する見込みとなっており、人口減少の速度が地域により大きく異なることがわかります。

高齢化率については、全ての地域で上昇傾向にあります。こちらも地域により上昇値が大きく異なることがわかります。また、2010(平成 22)年に 24%であった最大と最小の差は、2040(平成 52)年に 28.2% (豊北 57.6%と清末 29.4%の差)に拡大した後、2060(平成 72)年に 20.9% (豊北 55.3%と清末 34.4%の差)となり、年を経るごとに地域差は縮小していく見込みです。これは、前述(3ページ)のとおり地域の人口構造により、一部の地域では高齢化率が減少に転じるために生じるもので、各地域で高齢化率が最大となる年は図表 1-5 のとおりとなっています。

図表 1-4 地区別将来推計人口と高齢化率

	総人口			総人口指数 (2010年=100)				高齢化率						
	2010年	2040年	2060年	2040年		2060年		2010年		2040年		2060年		上昇値 2010→ 2060年
	人	人	人	値	順位 (降順)	値	順位 (降順)	値	順位 (降順)	値	順位 (降順)	値	順位 (降順)	
全市	280,947	197,302	144,078	70	-	51	-	28.5%	-	39.2%	-	41.5%	-	12.9%
本庁	72,153	48,621	34,874	67	10	48	10	31.4%	7	40.3%	7	42.4%	8	11.0%
彦島	29,200	17,442	11,626	60	12	40	12	29.6%	8	39.0%	9	39.7%	13	10.1%
長府	29,157	20,375	14,816	70	7	51	8	29.1%	10	40.0%	8	40.7%	9	11.6%
王司	7,401	6,124	4,965	83	4	67	3	27.7%	13	38.5%	12	40.4%	11	12.7%
清末	6,307	5,826	4,987	92	1	79	1	20.5%	15	29.4%	17	34.4%	17	13.9%
小月	6,747	4,695	3,368	70	7	50	9	28.1%	12	38.7%	10	40.5%	10	12.4%
王喜	3,457	2,709	2,181	78	5	63	5	25.8%	14	36.0%	14	36.9%	16	11.1%
吉田	1,527	851	512	56	14	34	14	32.7%	6	46.6%	5	48.7%	3	16.0%
勝山	25,507	21,929	16,984	86	2	67	3	18.7%	17	37.8%	13	43.2%	7	24.5%
内日	1,298	663	385	51	16	30	16	38.3%	2	49.1%	2	47.4%	4	9.1%
川中	33,335	28,373	22,699	85	3	68	2	20.3%	16	32.8%	16	38.7%	14	18.4%
安岡	14,904	10,896	8,208	73	6	55	6	29.2%	9	38.7%	10	40.4%	11	11.2%
吉見	6,614	4,590	3,643	69	9	55	6	33.1%	5	35.3%	15	37.1%	15	4.0%
菊川	7,978	5,191	3,374	65	11	42	11	28.4%	11	46.7%	4	49.0%	2	20.6%
豊田	5,987	3,296	2,049	55	15	34	14	36.4%	3	48.3%	3	46.5%	6	10.1%
豊浦	18,754	11,267	7,243	60	12	39	13	33.3%	4	46.1%	6	47.1%	5	13.8%
豊北	10,621	4,455	2,164	42	17	20	17	42.7%	1	57.6%	1	55.3%	1	12.6%

資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成 (注) 小数点以下の四捨五入により、地区の合計と全市の値が一致しない場合がある。

図表 1-5 地区別高齢化率ピーク年

2010年 (H22)	2015年 (H27)	2020年 (H32)	2025年 (H37)	2030年 (H42)	2035年 (H47)	2040年 (H52)	2045年 (H57)	2050年 (H62)	2055年 (H67)	2060年 (H72)
		吉見		内日		豊北		長府 王司 清末 菊川 豊田 豊浦	安岡	※全市 本庁 彦島 小月 王喜 吉田 勝山 川中

資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

一方、65 歳以上の人の増減は、高齢化率の増減とはまた違う動きをするものと見込まれます。

国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョンによると、人口減少は、65 歳以上人口が増加する「第1段階」、65 歳以上人口が維持から微減に転じる「第2段階」、65 歳以上人口が減少する「第3段階」の3段階に分けられ、人口が少ない地域ほど早く進行するとされています。各地区の65 歳以上人口のピークは図表 1-6 のようになる見込みです。各地区は、それぞれ表示されている年次まで第1段階が継続すると考えられ、地区により人口減少段階も異なるものと考えられます。

図表 1-6 地区別 65 歳以上人口のピーク年

2010年 (H22)	2015年 (H27)	2020年 (H32)	2025年 (H37)	2030年 (H42)	2035年 (H47)	2040年 (H52)	2045年 (H57)	2050年 (H62)	2055年 (H67)	2060年 (H72)
	本庁 彦島 内日 豊田 豊北	※全市 長府 王司 小月 吉田 安岡 吉見 豊浦	王喜 菊川				勝山	清末 川中		

資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

2) 各地区の消滅可能性

平成 26 年に民間研究機関が、全国の約半数の自治体を人口の減少に歯止めがかからず存続が危ぶまれる「消滅可能性都市」として発表しました。

「消滅可能性都市」となる基準は、同機関独自の推計¹により、2010（平成 22）年から 2040（平成 52）年の 30 年間に 20～39 歳の女性人口が 50%以上減少すると試算された場合で、下関市は 48.4%となり「消滅可能性都市」には該当しなかったものの、予断が許されない水準となりました。

同機関の推計方法を準拠して、各地区の 2010（平成 22）年から 2040（平成 52）年の 20～39 歳の女性人口数を算出すると図表 1-7 のとおりとなります。すべての地区で 20～39 歳の女性人口が減少するのみならず、市内 17 地区のうち 9 地区の減少率が 50%を超え、同機関が判断基準としている「人口減少に歯止めがかからず存続が危ぶまれる水準」にあることがわかります。

図表 1-7 地区別 20～39 歳女性の将来推計人口と変化率

	20～39歳女性数			
	2010年	2040年	変化率	順位 (降順)
	人数	人数		
全市	29,790	15,361	-48.4%	-
本庁	7,406	3,529	-52.4%	10
彦島	2,967	1,221	-58.9%	11
長府	2,973	1,620	-45.5%	6
王司	807	551	-31.8%	3
清末	831	655	-21.2%	1
小月	681	325	-52.2%	9
王喜	332	227	-31.5%	2
吉田	115	30	-74.0%	16
勝山	3,451	2,064	-40.2%	5
内日	103	34	-67.3%	14
川中	4,430	2,843	-35.8%	4
安岡	1,578	855	-45.8%	7
吉見	538	284	-47.2%	8
菊川	809	251	-69.0%	15
豊田	470	172	-63.4%	12
豊浦	1,676	592	-64.6%	13
豊北	621	108	-82.7%	17

注意) 小数点以下の四捨五入により、地区の合計と全市の値が一致しない場合がある。

資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

¹ 国立社会保障・人口問題研究所が、今後、人口移動は縮小すると仮定して算出しているところ、同機関は概ね同水準で推移すると仮定して算出している。